

武田の里山で育まれた最高のお米をあなたに  
清哲町中谷地区 田んぼオーナー募集!!



日本を代表するお米の産地として知られる清哲町中谷地区。懐かしい日本の里山風景を残す中谷地区の里山田で、あなたも米作りを体験しませんか?現在中谷地区では田んぼオーナーを募集しています。米作りを体験してみたい方はご応募ください。

また、本市は東京から電車等で90分程度という好立地でもあります。日帰り稲作体験も十分可能ですので、首都圏にお住まいの知人等がいらつしやる方は、田んぼオーナー制度をぜひご紹介ください。

■面積 100㎡(1口)

■価格 35,000円  
(1口/1シーズン)

※収穫量50キロは最低保障

■作業内容

- ・田植え 6月6日(土)
- ・田の草取り 7月5日(日)
- ・稲刈り 10月上旬頃

※この他、ちびっ子達の参加による田んぼの生き物調査も予定しています。

※日常の管理及び営農指導は中谷農地管理組合が行います。また、収穫したお米の配送をご希望の方には、送料負担で宅配します。

■特典 収穫祭への参加、生き物調査への参加、つぼ取り体験など

■募集締切 4月17日(金)

■主催 中谷農地管理組合

■申し込み・問い合わせ

農林課農林振興担当  
(内線2233~2255)

◆にらさき遺産めぐり 第9回

春を告げる「窟(あな)観音祭り」



凍てつく冬もピークをすぎて、水ぬるむ3月を迎えました。

春の訪れは誰しも心弾むものですが、葦崎に「春を告げるお祭り」があることをご存知ですか?毎年、春分の日の前後二日間に行われる雲岸寺の「窟(あな)観音祭り」です。雲岸寺は葦崎駅から南西へ徒歩5分ほど、七里岩の先端の崖下に位置する古刹で、通称「穴観音」と呼ばれて親しまれています。

祭りの当日は多くの露店で賑わい、華やかな稚児行列も繰り広げられます。肌を感じる暖かな風とともに、明るい春の雰囲気を目でも感じられることでしょう。この祭りは、葦崎のみならず峡北一帯に春を告げる風物詩として知られています。

雲岸寺は室町時代の寛正5年(1464)に真言宗の道場として開かれ、その後江戸時代初めの元和元年(1615)に曹洞宗に改められました。しかし、境内東

側の七里岩の断崖には、弘法大師空海が自作の観音菩薩像をまつたと伝わるほら穴=「窟(あな・いわや)」があり、寺の起源は平安時代までさかのぼるとも言われています。雲岸寺が「穴観音」と呼ばれているのは、このほら穴があるためです。

弘法大師が観音像を安置したのち、地元の人々がそれを覆うお堂を建てました。ほら穴に庇(ひさし)とベランダを付けたような形で、まるで断崖にお堂がめり込んでいるように見えます。現在の建物は室町時代に造られたものです。

窟には、観音像のほかに千体もの小さなお地蔵さんも並んでいます。言い伝えでは、必ずどれか一体のお地蔵さんと目が合うとか…。お祭りの際に探してみたいはいかがでしょうか?

(記事: 民俗資料館 名取)

